

平成23年9月教育委員会会議の要旨

委員長選挙

◆平成23年10月9日以降の教育委員会委員長を決める選挙が行われた。

【概要】

現委員長の任期が平成23年10月8日までとなっていることから、平成23年10月9日以降の委員長の選挙が行われ、下記のとおり決定した。

記

- | | |
|--------|---|
| (1) 氏名 | <small>むらかみ</small> 村 <small>ち</small> 上 <small>しん</small> 智 真 (再任) |
| (2) 任期 | 平成23年10月9日から平成24年10月8日まで (1年間) |
| (3) 備考 | 平成20年10月17日から委員長に就任し、今回の再任で4期目 |

議 案

議案第1号 『山口県スポーツ推進審議会委員の任命について』

【概要】

スポーツ基本法（平成23年法律第78号）第31条並びに山口県スポーツ推進審議会条例（昭和37年山口県条例第10号）第2条及び第3条の規定に基づき、山口県スポーツ推進審議会の委員を以下のとおり任命する。

山口県スポーツ推進審議会委員（案）

任期：平成23年9月15日～平成25年9月14日

	部 門	氏 名	役 職 等
1	スポーツ総合	青木邦男	山口県立大学大学院健康福祉学研究科教授
2		弘津公子	山口県立大学看護栄養学部講師
3		岡村豊太郎	山口大学名誉教授
4		小島毅	きらら山口クラブヘッドコーチ
5		和田崇子	山口県スポーツ医・科学サポート委員会委員
6		佐竹博	(財)山口県体育協会 常務理事
7	生涯スポーツ	稲村みどり	(社)山口県レクリエーション協会理事
8		井上登代子	菊川スポーツクラブ クラブマネジャー
9		小田智佳	下関市障害者スポーツセンター体育指導員
10		祝光雄	山口県体育指導委員協議会会長
11	成年スポーツ	渡壁秀治	宇部興産株式会社ソフトテニス部総監督
12		落合勇夫	山口県弓道連盟監事
13		濱田真由美	山口陸上競技協会女性委員長
14		福田愛子	日立笠戸バスケットボール部コーチ
15	少年スポーツ	小松徹	誠英高等学校校長（中高私学校長会）
16		大矢弘子	山口県スポーツ少年団指導者協議会理事
17		田邊克己	山口県中学校体育連盟会長
18		中村龍夫	山口県高等学校体育連盟会長
19	公 募	柴田千歳	スポーツボランティア（前回山口国体水泳競技出場）

※名前に網掛けのある方々は、この度の山口県スポーツ推進審議会の設置に伴い、新たに委員とされた方々です。（略歴は別紙のとおり）

その他は、旧山口県スポーツ振興審議会から引き続き委員にご就任いただく方々です。

報告事項

- ◆「第22回世界スカウトジャンボリー（スウェーデン大会）視察」について報告された。

【概要】

1 視察の概要

(1) 目的

- 平成27年に本県で開催される第23回世界スカウトジャンボリー（会場：山口市きらら浜）に先立ち、第22回大会の会場整備の状況やプログラム展開を視察し、今後の準備の参考とするとともに、東日本大震災で日本の安全に対して世界に不安が広がる中、山口県の安全性や魅力を各国のスカウト関係者にアピールし、第23回大会に多くの海外からの参加を図る。

(2) 出張期間

平成23年8月2日（火）から平成23年8月8日（月）

(3) 視察地

スウェーデン王国 スコーネ県 クリスチャンスタード市

(4) 視察者

山口県副知事
山口県教育委員会教育長
山口県教育庁社会教育・文化財課長 他 計6名

2 第22回世界スカウトジャンボリーの概要

(1) 開催期間

平成23年7月27日（火）から平成23年8月7日（日）

(2) 参加者

14歳から17歳のスカウト、スタッフ
146の国・地域から約40,000人
（日本から966人、うち山口県から12人参加）

(3) 会場

スウェーデン王国 スコーネ県 クリスチャンスタード市

(4) 主な内容

会場内での各種活動プログラム、国内各地でのキャンプ

(5) テーマ

Simply Scouting (シンプルー スカウティング)

(6) 日程

- 7月27日(水) 入場・テント設営
7月28日(木) テント設営・開会式
7月29日(金) 各種活動プログラム
7月30日(土) 各種活動プログラム
宗教セレモニー
※それぞれの宗教の歴史・教えなどを紹介するプログラム
7月31日(日) 各種活動プログラム
キャンプ・イン・キャンプ
※地域在住のスカウトとの自然体験プログラム(1泊2日)
8月1日(月) 各種活動プログラム
キャンプ・イン・キャンプ
8月2日(火) 各種活動プログラム
8月3日(水) 各種活動プログラム
8月4日(木) 文化フェスティバル
アリーナショー
※アリーナを舞台にコンサートなどを実施するプログラム
8月5日(金) 各種活動プログラム
8月6日(土) 閉会式
8月7日(日) 退場

3 視察の主な成果

(1) 関係団体との会談、各国派遣団に対する本県のアピール

- 世界スカウト機関、ボーイスカウト・スウェーデン連盟、地元関係者と会場内施設において面会し、大会に係る準備や運営等について聞き取りを行うとともに、第23回大会への協力を要請した。
- 韓国、スペイン、ブラジル、アメリカをはじめ、各国派遣団の指導者に面会し、山口県の自然や歴史、産業などを紹介するパンフレットを提示しながら、日本の震災からの復興の取組や山口県の安全性と魅力を説明した。

(2) プログラムの状況

- 冒険プログラムや環境問題をテーマとするプログラム等が展開され、4から5カ国のスカウトたちで一つのチーム(40人)を編成し、課題への取り組む。
- 地元スコーネ県内各地で展開された会場外プログラム「キャンプ・イン・キャンプ」では、地域在住のスカウトや住民により1泊2日の自然体験プログラムが提供されていた。
(湖でのカヌー体験、いかだ作り等、地域の自然や特色を生かした体験)
- 地域の人々は、文化フェスティバルに招待され、異文化の体験を通じて各国スカウトたちとの交流が行われていた。

(3) 会場整備の状況

- 会場の面積は、約286haときらら浜とほぼ同じであり、水はけのよい砂地で、高さ20cmから30cmの草が生えていた。
- シャワー、水道、照明等の電気整備、トイレは仮設で設置されていた。

4 第23回大会に向けた今後の対応

(1) 活動プログラム

- 今後とも、主催者や各市町と連携して、学校訪問や地域の特性を生かした体験活動等、本県の青少年と交流するとともに、本県の良さを体験してもらえりような、魅力あるプログラムづくりを進めていく必要がある。

(2) 健康・衛生面

- 第23回大会では、日本の蒸し暑い夏の時期の開催となるため、暑さ対策や食中毒予防の対策が非常に大切となり、今後仮設の日よけの設置等の工夫や食品の適切な取扱や管理等について、主催者へ積極的に助言していく必要がある。

(3) 基盤整備

- 第23回大会の開催地であるきらら浜の一部のエリアは、国の支援を得て公園として整備を進めているところであるが、未整備の部分もあり、スカウトが気持ちよくキャンプ生活ができるよう、平成25年に開催される第16回日本ジャンボリーまでには、スカウト連盟と連携し、快適なキャンプ地として一定の整備をしていく必要がある。

【 意見 】

- 健康面・衛生面の対応において暑さ対策に加え、台風への対策として子どもたちの避難場所等も想定し、山口県ならではの大会として有意義なものとなるよう、取り組んでほしい。

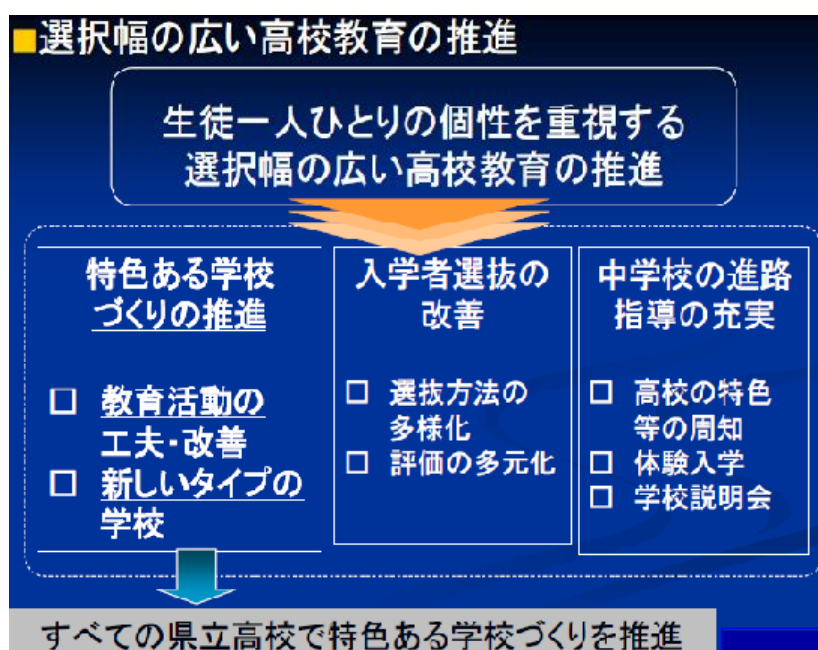
◆『県立高校に期待されるもの ～特色ある学校づくりに向けて～』

【概要】

本県では、選択幅の広い高校教育を推進するため、「特色ある学校づくりの推進」「入学者選抜」「中学校の進路指導の充実」を3つの柱とする高校改革を進めてきている。

□選択幅の広い高校教育の推進

選択幅の広い高校教育を推進するため、3つの柱のうち、「特色ある学校づくりの推進」については、すべての学校で取り組んでいる。具体的な内容は、「教育活動の工夫・改善」「新しいタイプの学校」などである。



□教育活動の工夫・改善(各学科等の特色ある取組)

- ・普通科系（普通科、理数科、英語科）

学力向上をめざし、教育課程等の工夫・改善に取り組んでいる。

SSH（スーパーサイエンスハイスクール事業）の概要と県内高校での取組

SSH：文部科学省よりSSHの指定を受けた学校では、科学技術系人材の育成のため、独自のカリキュラムによる授業や、大学・研究機関などとの連携、地域の特色を生かした課題研究など様々な取組を実施

県内での取組状況

学校名	実施年度	取組内容（例）
徳山高校	H22～H26	<ul style="list-style-type: none"> ・大学や周南地区の企業と連携し、体験的な学習を実施 ・マレーシアに生徒を派遣し、工科大学生と交流 ・課題研究等で県内の自然について学習
宇部高校	H19～H23	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究を山口大学工学部と連携で、週時程に位置付けて実施 ・オーストラリアで姉妹校交流・研究施設等訪問を実施

- ・専門学科（農業科、工業科、商業科、水産科、家庭科、看護科、福祉科）
地域の教育力を生かした新たな教育内容の導入に取り組んでいる。

農業科の各種大会成績

年度	学校名	成績
平成21年	田布施農業	農業クラブ全国大会（優秀賞） 農業鑑定、家畜審査、 農業情報処理
	山口農業	農業クラブ全国大会（優秀賞） 農業鑑定
	宇部西	農業クラブ全国大会（優秀賞） 農業鑑定、測量
	西市	農業クラブ全国大会（優秀賞） 農業情報処理
平成22年	田布施農業	農業クラブ全国大会（優秀賞） 農業情報処理
	山口農業	農業クラブ全国大会（優秀賞） 農業鑑定
	宇部西	農業クラブ全国大会（優秀賞） 農業鑑定、測量 技能五輪全国大会（敢闘賞） 造園の部
	日置農業	農業クラブ全国大会（優秀賞） プロジェクト発表

工業科の各種大会成績

年度	学校名	成績
平成21年	岩国工業	全国ロボット競技大会 第6位 敢闘賞
	田布施工業	ロボット相撲全国大会 ベスト8
	宇部工業	ロボット相撲全国大会 ベスト8
	青嶺	柳川ソーラーボート大会スラローム部門 優勝
平成22年	宇部工業	ロボットアメリカンフットボール全国大会 第3位

商業科の各種大会成績

年度	学校名	成績
平成21年	岩国商業	全国高等学校ワープロ競技大会 第3位
	防府商業	全国高等学校ワープロ競技大会 優勝
平成22年	岩国商業	全国高等学校簿記コンクール 3等
	防府商業	全国高等学校ワープロ競技大会 優勝 全国高等学校簿記コンクール 2等

水産科の各種大会成績

年度	学校名	成績
平成22年	水産	全国水産・海洋系高等学校生徒研究発表大会 最優秀賞

家庭科の各種大会成績

年度	学校名	成績
平成21年	厚狭	全国高校生クリエイティブコンクール 文部科学大臣賞
	田部	全国高等学校家庭クラブ研究発表会 全国家庭科教育協会賞
平成22年	厚狭	全国高校生クリエイティブコンクール 文部科学大臣賞

職業教育技術顕彰の受賞者（高度な職業資格を取得した生徒）数

年度	普通科	農業科	工業科	商業科	水産科	家庭科	総合学科	合計
平成20年	2	11	291	267	14	26	2	613
平成21年	0	20	271	303	12	27	5	638
平成22年	3	16	340	310	13	48	1	731

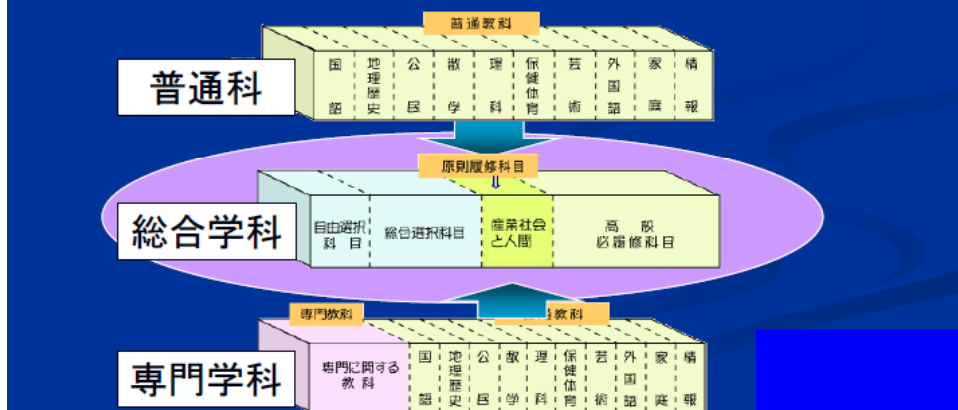
□新しいタイプの学校

- ・総合学科

主体的な系列・科目の選択を進めることにより、生徒に高い満足度があるが、学校規模が縮小する中で選択幅の維持が難しくなっている。

■新しいタイプの学校

- ◆総合学科
 - ・将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせる学習を重視
 - ・幅広い選択科目の中から生徒が自分で科目を選択し学ぶことが可能



・単位制

自己の進路を真剣に考える生徒が増加するなどの効果もあるが、学校規模が縮小する中での選択幅の維持が難しくなっている学校もある。

・中高一貫教育（昨年12月に意見交換を実施）

□再編整備による特色ある学校づくり

異なる学科間の科目選択や資格取得を可能とすることや学校規模の拡大による学校の活性化などに努めており、生徒の学習意欲の向上や部活動の各種大会での上位入賞などにつながっている。

□今後の取組の方向性

一人ひとりの夢の実現に向け、普通科系に関しては学力向上をめざした取組を、専門学科に関しては将来のスペシャリストの育成をめざした取組を充実させる。

【 質 疑 】

質問) 水産科や農業科等の専門学科のある学校に進学した生徒は、どのような進路の状況にあるのか。専門学科で学んだことを生かした進路状況であるのか。

回答) 専門学科に進学した生徒は、就職する生徒、専門性をさらに高めるため大学や短大、専門学校等へ進学する生徒もいる。工業科では、多くの生徒が就職をめざしており、平成23年3月のデータでは、8割以上が工業関係の事業所へ就職している。商業科や農業科については、50%強の生徒が就職している状況にある。

質問) 総合学科の特色はどのようなものか。

回答) 多様な生徒の進路に対応できるような教育課程となっており、「産業社会と人間」という社会的自立に向けて進路等を考える際に参考となる科目を開設することが条件である。また、「産業社会と人間」と専門教科に関する科目を合わせて25単位以上開設

するという条件もある。そのため、多様な目的を持った生徒への対応ができる学科である。

【主な意見】

- ・総合支援学校の高等部は、いわゆる5障害がある生徒にしか対応されておらず、知的障害を合併していない発達障害のある生徒は、総合支援学校に進学できない状況にある。そのため、選択幅の広い高等教育の推進として、発達障害のある生徒を受け入れられるように県立高校において特別支援学級を併設するような取組をしてほしい。
- ・専門学科のある学校に進学することのメリットについて、ある学校に進学するとどのような資格が取りやすくなるなど、教科を教える教員の魅力により、各学校が生徒を引き付けるような特徴ある取組をしてほしい。
- ・今後、山口県では1次産業を重視して、1次産業に携わる若者たちを育てていく必要があると思われるため、特に、農業科において、農業系の資格の取得など魅力ある学校づくりに取り組んでほしい。
- ・特色ある学校づくりにおいて、いかに生徒にやる気を持たせ、生徒自身が自ら考える力をつけていくことができるようになるかという特色を考えていく必要があるのではないか。